

2015
秀作

第48回「おかねの作文」コンクール



お母さんバンク

大分県・向陽中学校 2年 野田 真央

私の母は、昔、銀行で働いていた。銀行は街を歩けば、コンビニと同じくらいの数目にするものではあるものの、私個人としては、まだそのはたらきについて理解できておらず、こんなに沢山ある、ということは、社会において大変必要で、欠かせないものであるということは分かるのだが、実際どのようなことで、私たちの役に立ってくれているのか、明確なことは分かっていなかった。

そこで、銀行の役割について、母にききながら、調べてみることにした。

すると、銀行は、大きく分けて三つ、大切な業務を持っていることが分かり、その三つの役割が、ある社会経済に大きく影響し、動かしているということが見えてきた。

一つ目は、お金を銀行に預ける預金、二つ目は、お金を借りる貸付、三つ目は、お金を送ったり受けとったりする為替。

この中で、私が最も身近に体験しているのは、一つ目の預金だった。

というのも、私の家では、私が小さいころから、「お母さんバンク」と呼ばれる機関におこづかいやお年玉など、もらったお金を預ける、という仕組みがあったからである。

この「お母さんバンク」というのは、預けた金額により、それよりも少しお金が増えて戻ってくる、という仕組みで、小さかった私には、お金が増えるというだけの、ただただ親からのおこづかいであり、つまりラッキーなものであるとして捉えていたが、実はこれは、親が私に小さいころから、銀行の仕組みを実践し、教えてくれていたものだったということが分かった。

この「お母さんバンク」は、おこづかいをもらうたびに預けて、欲しいものがあるたびにお金をもらうという仕組みで、年に一回預けている金額によって、お金がプラスされていく。

そのおかげで、私はむだづかいを極力少なくできており、できる限り「お母

さんバンク」へ、預けておくお金を多くしていきたい、という意識をもつようになっていた。

これは銀行の預金の流れと同じものであると知り、この我が家独特のルールだと思っていたものが、経済の流れに通じていたと知ったときには、びっくりしたのと同時に、社会経済の勉強ができていたのだと思い、うれしくなった。

しかし、一つ疑問がのこることになった。それは、銀行はどのように成り立っているのかということだ。人から預けられたお金を増やしてくれているのに、なぜ稼ぐことができるのか、とても気になった。

そこで、母にきくと、二つ目のはたらきや三つ目のはたらきである貸付、為替が関係するということが分かった。これは、お金を借りる時や送るときに発生する手数料、また、見方によっては「金貸し業」で成り立っているようだ。そのために銀行は、一般の人たちからお金を集めている。それが一つ目のはたらき、預けるとお金が少し増える、「利率」が関係する。

このことを通して感じたのは、お金が上手に回ることの難しさ、お金のことを何も知らないままに社会へ出て「自立する」ことのこわさ、そしてお金の大切さである。

私の両親は、私の習い事やしたいこと、夢に向かって^{がんば}頑張りたいことに対して、おしみなくお金を出してくれている。

この「お金」を無駄にしない、自分に対して期待してくれている人たちをうらぎらないような人になりたい。

そして何よりも、お金の価値観がしっかりある、上手に使えたり、人のために使えたりすることはとても素敵だ。

その一方で、まだまだ経済について理解できていないというこわさもある。だからこそ、これからは新聞やニュースにも興味や意見を持ち、しっかり分かった上で、自分のお金の管理をできるようになりたい。

そのためにも、今は「お母さんバンク」のありがたさを実感し、大切にしていこうと思う。

